



## Document Summary



New  
Search



Help

[Preview Claims](#)

[Preview Full Text](#)

[Preview Full Image](#)

Email Link: 

**Document ID:** JP 08-055132 A2

**Title:** PRESENTING METHOD FOR RESULT OF TEXT RETRIEVAL AND TEXT RETRIEVING DEVICE

**Assignee:** NIPPON TELEGR & TELEPH CORP

**Inventor:** TAKESHITA ATSUSHI  
INOUE TAKASHI  
SAITO TAMAKI

**US Class:**

**Int'l Class:** G06F 17/30 A

**Issue Date:** 02/27/1996

**Filing Date:** 08/16/1994

### Abstract:

**PURPOSE:** To enable a user to efficiently acquire information by presenting contents described so as to be displayed in a display item list as a retrieved result at the time of presenting a text for the retrieved result of a full text data base.

**CONSTITUTION:** This retrieving device is provided with a full text data base 201 for storing a full text, a display item specifying list 209 for describing a display item inputted by a data base retrieving user, information whether the display item requires chapter setting structure or not and information whether the display item is to be displayed or not, a display means 207, and a control device. At the time of presenting the text for the retrieved result of the data base, the control device refers to the list 209 and presents display contents described in the list 209 as a retrieved result through the display means 207. Consequently the contents described so as to be displayed in the list 209 are displayed.

(C)1996,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-55132

(43)公開日 平成8年(1996)2月27日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 17/30		9194-5L	G 0 6 F 15/ 40	3 7 0 A
		9194-5L	15/ 403	3 7 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数7 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平6-191697

(22)出願日 平成6年(1994)8月16日

(71)出願人 000004226

日本電信電話株式会社  
東京都新宿区西新宿三丁目19番2号

(72)発明者 竹下 敦

東京都千代田区内幸町一丁目1番6号 日  
本電信電話株式会社内

(72)発明者 井上 孝史

東京都千代田区内幸町一丁目1番6号 日  
本電信電話株式会社内

(72)発明者 斎藤 珠喜

東京都千代田区内幸町一丁目1番6号 日  
本電信電話株式会社内

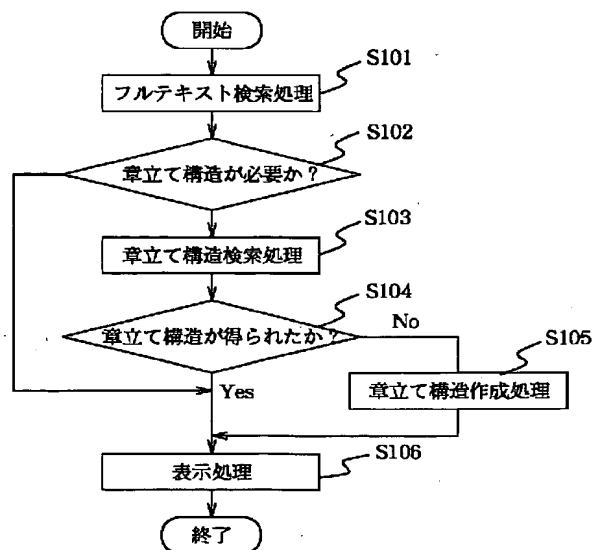
(74)代理人 弁理士 若林 忠

(54)【発明の名称】 テキスト検索結果提示方法およびテキスト検索装置

(57)【要約】

【目的】 利用者が効率よく情報取得を行なうことができるテキスト検索結果提示方法およびテキスト検索装置を実現すること。

【構成】 フルテキストを格納するフルテキスト・データベースと、データベース検索利用者により入力される表示項目と該表示項目が章立て構造を必要とするかという情報および該表示項目を表示するかという情報が記述される表示項目指定リストが設けられた検索装置で行われるテキスト検索結果提示方法であって、フルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示する際に、前記表示項目指定リストに表示するとして記述された内容を検索結果として提示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 フルテキストを格納するフルテキスト・データベースと、データベース検索利用者により入力される表示項目と該表示項目が章立て構造を必要とするかという情報および該表示項目を表示するかという情報が記述される表示項目指定リストが設けられた検索装置で行われるテキスト検索結果提示方法であって、フルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示する際に、前記表示項目指定リストに表示するとして記述された内容を検索結果として提示することを特徴とするテキスト検索結果提示方法。

【請求項2】 請求項1記載のテキスト検索結果提示方法において、表示項目指定リストに章立て構造を必要とする項目を表示することが指定されている場合には、検索結果の各テキスト・データに対して章立て構造を計算して検索結果の提示を行なうことを特徴とするテキスト検索結果提示方法。

【請求項3】 請求項1記載のテキスト検索結果提示方法において、フルテキスト・データベース中の各テキスト・データに対してあらかじめ計算しておいた章立て構造データベースを設け、表示項目指定リストに章立て構造を必要とする項目を表示することが指定されている場合には、前記章立て構造データベースから検索結果のテキスト・データに対応する章立て構造を検索することにより、検索結果の提示を行なうことを特徴とするテキスト検索結果提示方法。

【請求項4】 請求項1乃至請求項3のいずれかに記載のテキスト検索結果提示方法において、表示項目指定リストに、章タイトルが本文中に出現する位置の周辺の文字列で章タイトルも含んだ文字列とともに表示するかの情報がさらに記述され、フルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示する際に、前記表示項目指定リストに表示するとして記述された内容を検索結果として提示を行なうことを特徴とするテキスト検索結果提示方法。

【請求項5】 フルテキストを格納するフルテキスト・データベースと、データベース検索利用者により入力される表示項目と該表示項目が章立て構造を必要とするかという情報および該表示項目を表示するかという情報が記述される表示項目指定リストと、表示装置と、フルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示する際に、前記表示項目指定リストを参照し、該表示項目指定リストに表示するとして記述された内容を検索結果として前記表示装置により提示を行なう制御装置とを有することを特徴とするテキスト検索装置。

【請求項6】 請求項5に記載のテキスト検索装置にお

いて、

フルテキスト・データベース検索の結果を記憶するためのフルテキスト検索結果記憶手段と、

前記フルテキスト検索結果記憶手段に記憶されるテキスト・データに対して章立て構造を作成する章立て構造作成手段と、

前記章立て構造作成手段にて作成されたテキスト・データに対する章立て構造を記憶する章立て構造データベースと、

前記章立て構造データベースに記憶された章立て構造のうち、必要な章立て構造を探索するための章立て構造探索手段と、が設けられ、

制御装置は、フルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示する際に、章立て構造が表示項目指定リストに表示するとして記述されている場合には、前記章立て構造データベースの探索結果を提示することを特徴とするテキスト検索装置。

【請求項7】 請求項5または請求項6のいずれかに記載のテキスト検索装置において、

表示項目指定リストに、章タイトルが本文中に出現する位置の周辺の文字列で章タイトルも含んだ文字列とともに表示するかの情報がさらに記述され、

制御装置は、フルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示する際に、前記表示項目指定リストを参照し、該表示項目指定リストに表示するとして記述された内容を検索結果として前記表示装置により提示を行なうことを特徴とするテキスト検索装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、フルテキスト・データベースにおけるキーワード検索結果の提示方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のフルテキスト・データベース検索技術は、『小川他：「フルテキスト・データベースの技術動向」 情報処理Vol. 33 No. 4 pp. 404-412 (1992)』に説明されているように、大別すると検索の高速化と検索精度の向上、ユーザインタフェースの向上という方向で検討されている。このうち、ユーザインタフェースの向上という点では、ハイパー・テキストとの統合が紹介されている。

【0003】また、検索システムとして、検索結果として得られたテキストの全体を表示せずに、最初の数行だけを表示するものが存在する。

【0004】また、話題構造を認識するための方法が提案されており、該方法によって認識された話題構造は本発明における「章立て構造」として用いることができる。ここで、話題構造の認識方法について簡単に説明する。話題の展開を章、節や手掛かり句のように明示的に示される基盤展開と、その基盤展開の中で展開する意味

的展開に分けてそれぞれにおける話題を認識し、その後  
に基盤展開と意味的展開での話題を統合することによ  
り、テキスト全体の話題を認識する。基盤展開と意味的  
展開のそれぞれにおいては、あらかじめ与えられた話題  
構造認識規則を用いて、話題が提示・確立される話題確  
立区間の認識と、その話題確立区間で認識される話題語  
の認識と、その話題語の入れ子関係と継続区間を求める  
話題レベル区間の認識を行なう。

【0005】基盤展開と意味的展開のそれぞれで、話題  
確立区間と話題語と話題レベル区間を認識するための規  
則は、言語データが対話、モノログ、テキストのいづ  
れの伝達形態であるかによって異なる。伝達形態による  
話題展開様式の違いと、話題構造認識実験の結果につい  
ては、『竹下他：「話題構造認識の観点からのヒューマ  
ンコミュニケーションの研究」 電子情報通信学会19  
93年秋季大会D-62 (p. 6-64)』に開示されて  
いる。また、モノログに対する話題構造認識技術に  
関しては、『竹下：「話題構造認識を用いた映像検索シ  
ステム」 情報処理学会、情報メディア研究会 (第15  
回、1994年3月に開催)』に開示されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】従来のフルテキスト検  
索システムの結果の表示方法では、検索結果のテキスト  
全体にわたってどのような項目が書かれているかという  
ことが、利用者には分からないため、表示された結果が自  
分にとって必要なものであるかどうかの判断を行なうこ  
とができないだけでなく、自分にとって必要な情報がテ  
キストのどこに記述されているかを探するのが困難であ  
る。したがって、検索結果テキストのほとんど全体を読  
む必要があり、必要な情報を獲得するために、多大な時  
間と労力が必要となるという問題点がある。

【0007】本発明は上述したような従来の技術が有す  
る問題点に鑑みてなされたものであって、利用者が効率  
よく情報取得を行なうことができるテキスト検索結果提  
示方法およびテキスト検索装置を実現することを目的と  
する。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明のテキスト検索結  
果提示方法は、フルテキストを格納するフルテキスト・  
データベースと、データベース検索利用者により入力さ  
れる表示項目と該表示項目が章立て構造を必要とするか  
という情報および該表示項目を表示するかという情報が  
記述される表示項目指定リストが設けられた検索装置で  
行われるテキスト検索結果提示方法であって、フルテキ  
スト・データベース検索の結果のテキストを提示する際  
に、前記表示項目指定リストに表示するとして記述され  
た内容を検索結果として提示することを特徴とする。

【0009】この場合、表示項目指定リストに章立て構  
造を必要とする項目を表示することが指定されている場  
合には、検索結果の各テキスト・データに対して章立て

構造を計算して検索結果の提示を行なうこととしてもよ  
い。

【0010】また、フルテキスト・データベース中の各  
テキスト・データに対してあらかじめ計算しておいた章  
立て構造データベースを設け、表示項目指定リストに章  
立て構造を必要とする項目を表示することが指定されて  
いる場合には、前記章立て構造データベースから検索結  
果のテキスト・データに対応する章立て構造を検索する  
ことにより、検索結果の提示を行なうこととしてもよ  
い。

【0011】上記のいずれのテキスト検索結果提示方法  
においても、表示項目指定リストに、章タイトルが本文  
中に出現する位置の周辺の文字列で章タイトルも含んだ  
文字列とともに表示するかの情報がさらに記述され、フ  
ルテキスト・データベース検索の結果のテキストを提示  
する際に、前記表示項目指定リストに表示するとして記  
述された内容を検索結果として提示を行なうこととして  
もよい。

【0012】本発明のテキスト検索装置は、フルテキ  
ストを格納するフルテキスト・データベースと、データ  
ベース検索利用者により入力される表示項目と該表示項  
目が章立て構造を必要とするかという情報および該表示項  
目を表示するかという情報が記述される表示項目指定リ  
ストと、表示装置と、フルテキスト・データベース検索  
の結果のテキストを提示する際に、前記表示項目指定リ  
ストを参照し、該表示項目指定リストに記述された表示  
内容を検索結果として前記表示装置により提示を行なう  
制御装置とを有することを特徴とする。

【0013】この場合、フルテキスト・データベース検  
索の結果を記憶するためのフルテキスト検索結果記憶手  
段と、前記フルテキスト検索結果記憶手段に記憶される  
テキスト・データに対して章立て構造を作成する章立て  
構造作成手段と、前記章立て構造作成手段にて作成され  
たテキスト・データに対する章立て構造を記憶する章立  
て構造データベースと、前記章立て構造データベースに  
記憶された章立て構造のうち、必要な章立て構造を探索  
するための章立て構造探索手段と、が設けられ、制御装  
置は、フルテキスト・データベース検索の結果のテキ  
ストを提示する際に、章立て構造が表示項目指定リストに  
表示するとして記述されている場合には、前記章立て構  
造データベースの探索結果を提示するものとしてもよ  
い。

【0014】上記のいずれのテキスト検索装置におい  
ても、表示項目指定リストに、章タイトルが本文中に出現  
する位置の周辺の文字列で章タイトルも含んだ文字列と  
ともに表示するかの情報がさらに記述され、制御装置  
は、フルテキスト・データベース検索の結果のテキ  
ストを提示する際に、前記表示項目指定リストを参照し、該  
表示項目指定リストに表示するとして記述された内容を  
検索結果として前記表示装置により提示を行なうことも

のとしてもよい。

【0015】

【作用】本発明のテキスト検索結果提示方法および装置においては、表示項目指定リストに表示するとして記述されたものが表示される。

【0016】上記の表示項目指定リストの項目の具体的な例としては、章立て構造の章タイトルの文字列と、章タイトルが本文中に出現する位置の周辺の文字列で章タイトルも含んだ文字列と、テキストの本文の文字列のうちのどの項目を表示するかという情報と、それぞれの項目が章立て構造を必要するか等が挙げられる。

【0017】もし、その表示項目リストにおいて、章立て構造を必要とする項目を表示することが指定されている場合、検索結果の各テキスト・データに対して章立て構造が計算されるか、あるいはフルテキスト・データベース中の各テキスト・データに対してあらかじめ計算しておいた章立て構造データベースから検索結果のテキスト・データに対応する章立て構造が検索される。

【0018】最後に、表示項目リストに指定された項目を検索結果として提示する。

【0019】本発明は、検索結果として得られたテキスト・データに対応する章立て構造を、もとのテキスト・データとともに表示されるので、利用者が検索結果が正しいかどうかを判断したり、自分が欲しい情報がテキストのどこに記述されているかを探したりすることを、時間と労力を費やさずに行なうことを可能となる。

【0020】

【実施例】次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0021】A. 全体の流れ

まず、図1および図2を参照して本発明による実施例の全体の流れについて説明する。図1は本発明の一実施例のテキスト検索結果提示方法を示すフローチャートであり、図2は上記方法を実行する検索装置の一実施例の構成を示すブロック図である。図1に示すフローチャートは図2に示した各手段を制御する制御装置（不図示）の動作を示すものであり、以下、図1および図2により本発明の処理の概要を説明する。

【0022】図2に示す検索装置は、テキストを格納するテキストデータベース201と、テキストデータベース201内に格納されたデータベースを検索するフルテキスト検索装置202と、フルテキスト検索装置202による検索結果を記憶するフルテキスト検索結果記憶手段203と、上述した話題構造認識を利用して章立て構造とする章立て構造作成手段204と、章立て構造自身を記憶する章立て構造記憶部208<sub>2</sub>およびテキスト番号と章立て構造の対応を取るテキスト章立て構造対応記憶部208<sub>1</sub>から構成される章立て構造データベース208と、フルテキスト検索処理結果であるテキスト番号に相当する章立て構造を章立て構造データベース208

から探す章立て構造探索手段205と、データベース検索利用者により入力される表示項目と該表示項目が章立て構造を必要とするかという情報および該表示項目を表示するかという情報が記述される表示項目指定リスト209と、表示項目指定リスト209で指定された情報を準備する表示項目選択手段206と、検索結果を利用者に対して提示する表示手段207より構成されている。

【0023】本実施例において、検索処理が開始されると、まず、フルテキスト検索手段202によるフルテキスト検索処理が行われる（ステップS101）。このフルテキスト検索処理では、検索条件として与えられた文字列がテキスト中に含まれているかを文字列マッチングで調べ、検索条件として与えられた文字列がテキスト中に含まれていれば、検索結果としてテキストの番号を出力する。このようなフルテキスト検索処理の詳細については、例えば、『小川他：「フルテキスト・データベースの技術動向」 情報処理 Vol. 33 No.4, p. 404-412 (1992)』に説明されている。検索結果はフルテキスト検索結果記憶手段203に保存される。

【0024】次に、検索結果を提示する際に、章立て構造の情報が必要であるかどうかを表示項目指定リスト209によって調べる（ステップS102）。表示項目指定リスト209に、章立て構造が必要とされ、かつ、表示することが指定されるという条件を満たす項目が存在すれば、章立て構造の情報が必要となる。図2に示した表示項目指定リスト209の例では、章タイトルおよび章タイトル周辺という項目が上記の条件を示すものであり、これを満たすものであるため、章立て構造の情報は必要となる。

【0025】もし、章立て構造の情報が必要であれば、章立て構造探索手段205を用いた章立て構造探索処理（ステップS103）を行う。この章立て構造探索処理においては、フルテキスト検索処理結果であるテキスト番号に相当する章立て構造を、章立て構造データベース208から探す。章立て構造データベース208は、上述した章立て構造自身を記憶する章立て構造記憶部208<sub>2</sub>と、テキスト番号と章立て構造の対応を取るテキスト章立て構造対応記憶部208<sub>1</sub>から構成されている。続いて、制御装置は、テキスト章立て構造対応記憶部208<sub>1</sub>よりテキスト番号に対応した章立て構造が章立て構造記憶部208<sub>2</sub>より得られたかを確認する（ステップS104）。該章立て構造が得られた場合には表示手段207による表示処理に進み（ステップS106）、該章立て構造が得られなかった場合には、章立て構造作成手段204による章立て構造作成処理を行なう（ステップS105）。

【0026】ステップS106における表示処理は、表示項目選択手段206によって行われるもので、表示項目指定リスト209で指定された情報を章立て構造探索

手段を介して章立て構造データベース208より読み出して表示手段207に表示させる。

#### 【0027】B. 章立て・目次構造データベース

次に、本実施例におけるデータベース構造について説明する。

【0028】本実施例における章立て構造データベース208は、テキスト番号と、そのテキストに相当する章立て構造の間のリンクを取るたものである。章立て構造データベース208には、1つ以上のテキストに対する章立て構造を保存する「章立て構造テーブル集合」と、その章立て構造テーブル集合中の章立て話題構造とテキスト番号とを対応付ける「テキスト・章立て構造対応テーブル」から構成される。「章立て構造テーブル集合」は章立て構造記憶部208<sub>2</sub>に格納され、「テキスト・章立て構造対応テーブル」は図2のテキスト・章立て構造対応記憶部208<sub>1</sub>に格納されている。

【0029】図3は、章立て構造データベースの一例を示す図である。例えば、テキスト番号1962番のテキストの章立て構造テーブルは18番であることがテキスト・章立て構造対応テーブルより分かる。章立て構造テーブル集合によると、18番の章立て構造テーブルには、例えば、第1章の章タイトルには「質疑」が含まれ、その章タイトルはテキスト中の7単語目から始まり、7単語目で終わること、および、その章は第0文から開始し、第2文まで継続することが記述されている。

#### 【0030】C. テキストデータを用いた説明

次に、具体的なテキスト例を用いて、本発明を適用した場合の検索結果の表示方法を詳細に説明する。

【0031】検索結果として、図3に示した1962番のテキストが得られたとする。表示項目指定リスト209（図2参照）に本文のみを表示するように記述されている場合には表示結果は図4に示すものとなる。このような提示方法は、検索対象の各テキストが数行程度の非常に短いものであるは有効であるが、検索対象のテキストが図示するような長文の会議録である場合には、これをそのまま検索結果として表示すると装置利用者には非常に分かりにくい。また、仮に従来の方式を用いて、この会議録の最初の数行を検索結果として表示しても、その後何が話されているのかが分からないので、利用者はこれが正しい検索結果であるのか、またそうであった場合、自分が欲しい情報がどこにあるのかが非常に分かりにくい。

【0032】次に、表示項目指定リスト209に章タイトルと章タイトル周辺を表示するように記述されているとする。表示項目指定リスト209より、章立て構造が必要となるので、章立て構造データベース208のテキスト・章立て構造対応テーブル208<sub>1</sub>を調べる。テキスト・章立て構造対応テーブル208<sub>1</sub>により、章立て構造テーブル集合中の18番の章立て構造が、このテキストに対する章立てであることが分かり、図1に示した

フローチャートに従った表示処理が行なわれる。

【0033】検索結果として章タイトルと章タイトル周辺を、目次として表示した例を図5に示す。章タイトル周辺については、各章タイトルの下に、本文中での前後の数単語も記述するKWIC (Key Word In Context) にて表示している。KWICを用いると、その単語がどのような意味合いで用いられているかが分かりやすくなるので、索引を作成する場合によく用いられているが、本実施例では、目次に利用した。KWICの詳細については「情報科学辞典」(岩波書店、長尾他編集)の177頁に説明されている。また、この情報科学辞典の索引もKWIC形式である。

【0034】次に、表示項目指定リスト209において、章タイトルと章タイトル周辺と本文を表示するように指定されているとする。このような場合には、図6に示すように章立てを本文に埋め込んだ表示を行なう。

【0035】また、検索結果として図3に示す1964番のテキストが得られ、かつ、章立て構造が必要である場合には、対応する章立て構造が章立て構造テーブル集合に含まれていないので、図1のフローチャートに従い、章立て構造を作成してから、1962番のテキストと同様の表示処理を行なう。

【0036】上記の説明では、検索結果のテキストが1つだけの場合を説明したが、複数ある場合も同様に、利用者の指定に応じて、それぞれのテキストの目次や、章立て付きテキストを表示する。

【0037】また、表示項目指定リスト209に章立て構造を必要とする項目を表示することが指定されている場合には、章立て構造データベース208から検索結果のテキスト・データに対応する章立て構造を検索するものとして説明したが、検索結果の各テキスト・データに対して章立て構造を計算するものとしてもよい。本実施例のように章立て構造データベース208を設けた場合には表示動作について並列処理が可能となるために動作を迅速なものとしてできるが、上記のように章立て構造データベース208を省く構成とした場合には装置構成を簡略化することができる。

#### 【0038】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載するような効果を奏する。

【0039】請求項1記載の方法および請求項5に記載のものにおいては、利用者がフルテキストベース検索結果が正しいかどうかを容易に判断したり、自分が欲しい情報がテキストのどこに記述されているかを容易に探しやすくなることが可能となる。また、章立て構造とすることによって、情報の範囲が示されており、不必要な部分を読む必要がなくなるので、効率よく情報取得を行なうことができる効果がある。

【0040】請求項2に記載の方法においては、上記効果を奏する装置の構成を簡略化することができる効果が

ある。

【0041】請求項3に記載の方法および請求項6に記載のものにおいては、表示動作を迅速とすることができる効果がある。

【0042】請求項4に記載の方法および請求項7に記載のものにおいては、上記各効果に加えて、章タイトルの意味合いを利用者が分かりやすいものとすることができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

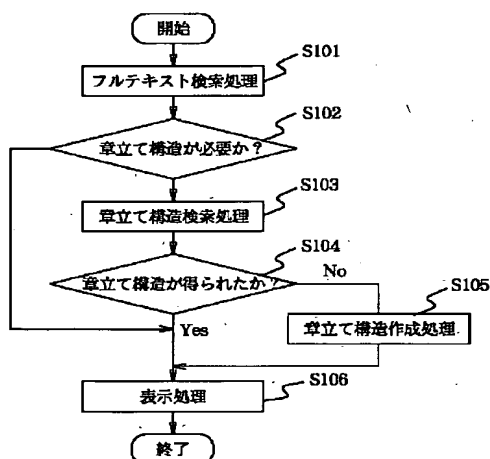
【図1】本発明の一実施例のテキスト検索結果提示のための処理を示すフローチャートである。

【図2】本発明の一実施例のテキスト検索結果提示装置のブロック図である。

【図3】本発明の一実施例の章立て構造データベースの例を示す図である。

【図4】本発明の一実施例の検索結果テキスト例を示す図である。

【図1】



【図3】

テキスト-章立て構造対応テーブル

テキスト番号	章立て構造番号
.....	.....
1982	18
1983	19
1984	なし
.....	.....

章立て構造テーブル集合

章立て構造番号 = 18					
章番号	章タイトル	章タイトル位置		章範囲	
		開始単語番号	終了単語番号	開始文番号	終了分番号
1	質疑	7	7	0	2
2	歴代U党政治の	118	122	3	23
3	Q事件	765	796	24	27
4	大蔵大臣	1087	1088	28	38
5	政治	1512	1512	37	138
5.1	国会	2201	2202	57	59
5.2	Q議員自身	2268	2270	60	71
.....	.....	.....	.....	.....	.....

章立て構造番号 = 19					
章番号	章タイトル	章タイトル位置		章範囲	
		開始単語番号	終了単語番号	開始文番号	終了分番号
1	マナー	10	10	0	659
1.1	ドラマ	25	25	2	14
.....	.....	.....	.....	.....	.....

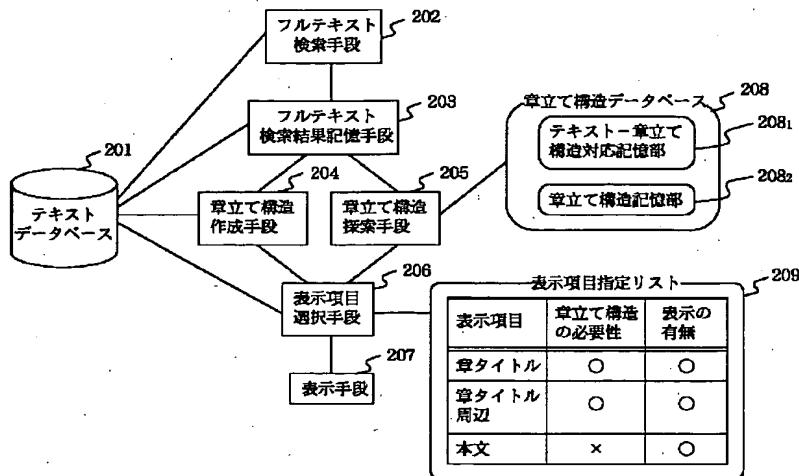
【図5】本発明の一実施例の検索結果テキスト例の目次表示例を示す図である。

【図6】本発明の一実施例の検索結果テキスト例の章立て表示例を示す図である。

【符号の説明】

- 201 テキストデータベース
- 202 フルテキスト検索手段
- 203 フルテキスト検索結果記憶手段
- 204 章立て構造作成手段
- 205 章立て構造探索手段
- 206 表示項目選択手段
- 207 表示手段
- 208 章立て構造データベース
- 208<sub>1</sub> テキスト-章立て構造対応記憶部
- 208<sub>2</sub> 章立て構造記憶部
- 209 表示項目指定リスト
- S101～S106 ステップ

【図 2】



【図 4】

【図 5】

【○議長 (A 君)】

これより国務大臣の演説に対する質疑を継続いたします。

B 君。

【○B 君】

カラスが鳴かない日はあっても、「P 社汚職」、「Q 代議士」、「R 事件」の報道のない日はないという異常な政治不信の中の国会であります。二十一世紀に向けて世界が激動し、新しい秩序を求めて、日本の政治が大きな役割を果たさなければならないこのときに、S 社、T 社、そして P 社と次々に起きる疑惑事件で、日本の政治を三流どころか四流、五流としてしまった歴代 U 党政治の責任は、はかり知れないものがあります。

私は、このようなときに当たり、W 党・護憲共同を代表して、X 総理に、日本の政治を改革する課題を中心に、我が党の提案も述べつつ、昨日の Y 委員長の質問を補完する立場で質問をいたします。

(中略)

さて、P 社から Q 議員への金の流れもまた、政治が企業に依存する姿を示したものであります。

かつて最高裁は、Z の政治献金問題に関して、企業献金合意の判決を下しました。

この判決を受けて今日まで政府・U 党は、企業も社会的な存在だから献金も許されるとの見解を示してきました。

まず国会が快意することが必要です。

U 党さえやる気を出せば実現できるのであります。

総理の御決断を求めます。

(以下略)

1 質疑

【これより国務大臣の演説に対する<<質疑>>を継続いたします。

B 君。カラス】

2 歴代 U 党政治の責任

【どころか四流、五流としてしまった<<歴代 U 党政治の責任>>は、はかり知れないものがあります。】

3 Q 事件

【声が初めからありました。しかし、<<Q 事件>>が起ころうと起こるまいと、二十一世紀】

4 大政大臣

【したいと存じます。さて、総理が<<大政大臣>>として関係した T 社疑惑、この間に起きた】

5 政治

【Q 議員への金の流れもまた、<<政治>>が企業に依存する姿を示したもので】

5.1 国会

【国民の皆さん方も目覚めております。まず<<国会>>が快意することが必要です。U 党さえやる気】

5.2 Q 議員自身

【たことが報じられていますけれども、<<Q 議員自身>>はのうとうと議員を統括しているのであります。】

5.3 一つの重要な課題

【を伺いたいと存じます。政治改革のもう<<一つの重要な課題>>は、一票の投票価値の平等を】

5.4 日米関係

【されたいをお願いを申し上げます。次に、<<日米関係>>についてお尋ねしたいと思います。ソ連邦が崩壊】

(以下略)



【図 6】

1 質疑

【これより国務大臣の演説に対する<<質疑>>を継続いたします。

B君。カラス】

【○議長 (A君)】

これより国務大臣の演説に対する質疑を継続いたします。

B君。

【○B君】

カラスが鳴かない日はあっても、「P社汚職」、「Q代講士」、「R事件」の報道のない日はないという異常な政治不信の中での国会であります。

2 歴代U党政治の責任

【どころか四流、五流としてしまった<<歴代U党政治の責任>>は、はかり知れないものがあります。】

二十一世紀に向けて世界が激動し、新しい秩序を求めて、日本の政治が大きな役割を果たさなければならないこのときに、S社、T社、そしてP社と次々に起きる疑獄事件で、日本の政治を三流どころか四流、五流としてしまった歴代U党政治の責任は、はかり知れないものがあります。

私は、このようなときに当たり、W党・躍進共同を代表して、X総選に、日本の政治を改革する課題を中心に、我が党の提案も述べつつ、昨日のY委員長の質問を補完する立場で質問をいたします。

(中略)

5 政治

【Q議員への金の流れもまた、<<政治>>が企業に依存する姿を示したもので】

さて、P社からQ議員への金の流れもまた、政治が企業に依存する姿を示したものであります。

かつて最高裁は、Zの政治献金問題に関して、企業献金合憲の判決を下しました。

この判決を受けて今日まで政府・U党は、企業も社会的な存在だから献金も許されとの見解を示してきました。

【国民の皆さん方も目覚めております。まず<<国会>>が決意することが必要です。U党さえやる気】

まず国会が決意することが必要です。

U党さえやる気を出せば実現できるのであります。

総理の御決断を求めます。

(以下略)